

## 学校運営協議会の評価（学校関係者評価）

児童・生徒及び保護者が行った学校・授業評価をもとにした学校による自己評価について、第3回学校運営協議会（12月6日）を受け以下のように評価しました。

- ・本年度取り組んできたことが一定の成果として評価「A」が増えたが、さらに課題を把握して次につなげていく努力は継続したほうが望ましい。
- ・自己評価、総合評価と学期ごとの整合がもう少しわかるような様式の工夫やスクールパートナーズからの評価も加えられたらよかった。しかし、子どもの細やかな姿を捉えていてとてもよかった。
- ・「学校が楽しい」と思えるのも、先生方や地域のボランティアの方々への信頼があってからこそであろう。協働の学びが子どもたちの「様々な角度からの視点」に繋がっている。
- ・特別支援を要する児童生徒への支援のあり方や人手不足が課題と思われる。

### 1 学びづくりへの評価について

- ・ホップ期の心と体を開いて十分に五感を働かせて学んでいる子どもたちの姿に感動。
- ・子どもが手ごたえを感じることの良さ。授業の中でそういう姿がある。
- ・ICTの利用、振り返りの充実。発達や学年の段階に応じた反復学習。同じ教材や内容を繰り返しながら何度も学習することで、少しずつ難しい内容に挑戦するスパイラル学習は、振り返りで子どもの意識を捉え、授業との連動を図っている学びの実現。
- ・読解力やコミュニケーション能力の評価も「学びづくり」の中でできたら。
- ・どの重点においても、一人ひとりにとっての目標がはっきりすることが大切。
- ・家庭学習に弱みがある。一方で与えるのではなく、授業での学びが自然と生活に繋がったり、自律学習への意欲に結び付いたりするとよいのではないか。
- ・家庭学習の保護者のサポートを具体的にどうしたらいいのかわからないので不安。授業参観日が学年PTAに出るだけで終わらないような工夫や質の高い授業をお願いしたい。
- ・授業での成果を定着させるために、家庭学習において「自ら学ぶ」を自己実現させたい。
- ・授業の中で、基礎学力をどのように保障していくのか。「教師が教える場面」と「子どもが考える場面」のバランスを考えること。放課後塾の利用を促進したい。
- ・市民科や夢の時間、普段の授業など、ネットで調べるだけでなく、「プロに聞く、体験する」ことを重視し、地域人材やその得意分野をまとめて把握できるシステムがあると役立つのでは。

### 2 体づくりへの評価について

- ・「楽しんで」という部分がしっかり保障されている。
- ・元気アップや休み時間に、子どもと教師が一緒になって体を動かす様子があり、体づくり・集団づくりの上でとてもよい。
- ・子どもが主体的に参加しているため、家でも親子で話ができる。
- ・にこにこ表情よく活動している様子がよい。楽しんで体を動かしている。
- ・取り組みの「意味」を児童生徒が分かっている。活動の意味付けが位置づいてきていることから参加しない子が減少。
- ・色々な工夫をしているから、体を動かすことに楽しさを感じる子が増えてきた。

### 3 集団づくりへの評価について

- ・相手の背景を踏まえて、皆でその言動に価値を認められる姿があり、クラス全員で歓喜する姿がある。
- ・課題を解決したり、学びを深めたりしているので、安心できる関係はできている。仲良しすぎるのもよいが、リーダーとしての自覚をどう持たせるか。
- ・来年9年生が少ないのが心配。
- ・子どもが大人を信頼している。よい関係性ができている。

美麻学校運営協議会長  
北沢 孝一